

関係団体の意見と対応

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>① 今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。具体的には通砂基準の引き下げによる複数回排砂の検討をお願いしたい。</p>	<p>① 平成22年1月20日に開催された第32回黒部川ダム排砂評価委員会において、「今年度の連携排砂・通砂は、7月9日から7月10日にかけて実施された連携排砂、7月18日から7月19日にかけて平成18年度以来の実施となった連携通砂の計2回が実施された。なお、連携試験通砂および短時間集中豪雨対策については実施基準流量に達しなかったことから実施できなかった。出し平ダムからの目標排砂量は約37万m³に対し実績排砂量が約37万m³となり、排砂前に設けた想定変動範囲の約31万m³から約41万m³の内に収まる結果となった。水質、底質および生物相の環境調査結果をみる限り、連携排砂および連携通砂による一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられない。」との評価をいただいている。</p> <p>また、今後の連携排砂および連携通砂の方法については以下のご意見をいただいている。</p> <p>○自然環境の現状を踏まえ、排砂・通砂の実施方法について引き続き検討を進めること。</p> <p>こうした評価委員会のご意見を踏まえ本年度は、今後の通砂基準の見直しの検討資料として、</p>

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体		通砂基準を引き下げた試験通砂及び短時間集中豪雨対策を実施し、その効果把握に努め、平成23年度計画に反映させる計画である。

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 流木による漁業への影響が顕著になりつつある中、排砂実施機関においても、対応案について検討願いたい。</p> <p>③ 出し平ダムの上流域に堆積している土砂に対する総合的な対策を具体的に検討して欲しい。</p>	<p>② これまでも出し平ダム及び宇奈月ダムのダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間中の排砂及び通砂に至らない出水後に流木を回収している。 また、出・洪水時に河道内に堆積した流木については、従来から次回の出・洪水時に下流に流出し、被害を及ぼすことが想定されることから河道内に堆積した流木の回収を積極的に行っており、今後も上流からダム湖内に流入し浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内に堆積した流木の回収に引き続き努めて参りたい。</p> <p>③ 黒部川上流域については、崩壊箇所が約7,000箇所、その流域面積に対する比率はおよそ5%にも達し、豪雨時には崩壊した多量の土砂が川に流れ込む状況です。それらの状況に対し、上流域において砂防堰堤工事等を進めており、今後とも総合的な土砂管理を行うべくこれらの事業を鋭意実施して参りたい。</p>

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>④ 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量の把握に今後とも努めて欲しい。</p>	<p>④ 土砂収支について一定の精度を持ったシミュレーションを行うにあたっては、シミュレーションの設定条件及びシミュレーション結果と排砂中及び洪水中の土砂モニタリングによる実測値との検証が重要であるが、現在の技術では洪水時の観測が困難な状況にある。</p> <p>このように土砂動態の測定技術の飛躍的な向上は難しいものではあるが、土砂動態把握のため、平成16年以降、排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施しており、また、より土砂動態を詳細に把握すべく、平成18年度からは通砂後と9月にも新たに貯水池測量を実施しているところである。これらの測量により把握精度が確認できたものについては、専門家の指導ならびに関係団体と相談しながら整理して参りたい。</p> <p>また、黒部川河口より海へと流出した土砂量および土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂時等のへりによる空撮、海域での採水等を実施しているところでもあるが、更なる精度向上に向けて調査検討をして参りたい。</p>

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>⑤ 排砂と魚の生息への影響に対する因果関係について、今後も調査地点、方法を含め検討して欲しい。</p>	<p>⑤ これまで専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス、プランクトンの調査を行ってきたところである。</p> <p>本年度も環境調査計画に基づく底質調査を予定しており、今後も魚の生息への影響に対する調査については、専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら調査して参りたい。</p>

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>① 排砂ダムを有する黒部川においては、魚族生息に与える影響は計り知れないものがあり、特にアユ等の生息環境の影響について危惧しているところである。</p> <p>内水面漁協としても、これら魚族の生息環境状況の改善策を講じたいと考えており、今後の魚類調査にあたっては、内水面漁協とも協議をしながら実施されたい。</p>	<p>① 実施機関としては、黒部川の河川環境へ与える影響を軽減できるような排砂方法の検討に努めるとともに、黒部川及び出し平・宇奈月両ダムにおける排砂前後の環境状況を把握すべく、定期的かつ排砂期間中の排砂環境影響調査を行っており、魚類採捕調査においては、これまで専門家の指導ならびに内水面漁協の方々にご協力頂きながら、実施してきているところである。</p> <p>平成22年度においても、連携排砂に伴う環境調査計画に基づく排砂環境調査として、魚類採捕調査、土砂堆積調査、水生生物調査を実施する予定である。また、第32回黒部川ダム排砂評価委員会での今後の留意点を踏まえ、魚類の生息環境への影響に対する調査や分析に努めて参るとともに、今後とも専門家の指導ならびに内水面漁協の方々からご意見、ご協力を頂きながら実施して参りたい。</p>

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>① 出し平・宇奈月ダムの連携排砂の必要性と処置方法を、地域住民により深く周知され、理解と協力が得られるよう、常に関係市町村と連携を深めながら鋭意努力願いたい。</p> <p>② 天候の状態や農作業の時期的な影響を考慮し、連携排砂、連携通砂、豪雨時の停止と合口用水路の取水停止が連続し長期化しないような実施方法を検討願いたい。</p> <p>③ 農業関係団体において、4月から9月が農業用水の最も大切な灌漑期であり、農家の協力と理解が不可欠であることを十分認識願いたい。</p>	<p>① 連携排砂実施機関では、これまでも文書や来訪者からの意見、質問への対応はもとより、勉強会・説明会等の要望があればそれに応じるなど、関係市町のご協力を得ながら、様々な形で理解と協力が得られるように努めてきたところである。 今後とも、連携排砂、通砂について、地元自治体等とも相談しながら理解いただけるように努めて参りたい。</p> <p>②及び③ 排砂は、環境への影響を小さくするため、土砂変質を防止し、できるだけ自然の土砂流に近い形で排砂を行うことが必要であり、毎年排砂を確実に実施することが重要と考えている。 通砂は排砂後の一定規模以上の出洪水発生時に、出洪水に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めず、通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の排砂量を減らし、環境に与える影響を低減させるとの観点から必要なものと考えている。 今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討をして参りたい。</p>

【平成22年度連携排砂計画及び平成22年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>④ 愛本堰堤取水口下流に位置する左右岸沈砂池では、目視ではあるが、連携排砂後の土砂堆積が著しく現れる。また、取水口より上流部の黒部川河床に土砂が堆積し、取水口付近では河道変更が生じて左岸と右岸の取水に影響を及ぼすことが懸念される。</p> <p>愛本堰堤上流部河床及び左右岸沈砂池での土砂堆積量を調査し排砂との関係を明確にしその対応を願いたい。</p>	<p>④ 土砂堆積調査には関係団体及び関係機関とその方法や時期等について、調整・検討が必要なことから、今年度は、その調整を図って参りたい。</p>

